ノバ・スコシア州

カナダ一の水産物輸出

セント・ローレンス湾の南に、エビのような形でのびているのがノバ・スコシア州である。カナダ大陸とは、〝エビ〟の背中の部分にあたる細いチグネクト地峡でくっつけているだけだ。その頭の部分には、カンソ海峡をへだてて、ケープ・ブレトン島が北海道とやや同じ格好で位置しているが、その両方を合わせたのがノバ・スコシア州である。

ジョン・カボットが一四九七年、ノバ・スコシアに上陸したことが記録されている。実際にはそのはるか前に、バスク人や古代スカンジナビア人が渡来した、という説もある。一六〇三年、フランス国王アンリ四世がドュモン卿に毛皮貿易のために植民を許可したときから、この一帯――フランス統治時代はアカディと呼ばれていた――は北アメリカにおける英仏抗争の渦に巻き込まれて、変転の歴史をたどる。地位がようやく定まったのは、フランス敗退の結果、一七六三年に東部カナダが英国領となってからのことである。

今日のノバ・スコシアの基礎をつくったのは、米国の独立戦争のとき何万とやってきた親英派の人々（〝国王派〟）と、一八〇〇年にスコットランドからケープ・ブレトンなどに移住した人々。ノバ・スコシア（ラテン語で〝ニュー・スコットランド〟のこと）は、そもそも一六二一年、あるスコットランド人の提案で名付けられ、ウイリアム・アレクサンダー卿に下賜されたものであるが、スコットランドから多数の移住者が到来したことにより、スコットランド的な色彩が現在でも濃く残っている。ゲーリック語やキルト、バグパイプといったスコットランド的な伝統に対する郷愁はきわめて強く、夏ともなればスコットランド高地のフォークダンス大会や集会、コンサートで賑わう。

首相　ジョン・ブキャナン（進歩保守党）
首都　ハリファックス
面積　五五、五〇〇平方キロ
人口　八六八、一〇〇人（八四年）
州民所得　九十二億ドル（八四年推定）

ノバ・スコシアは、かつて、船舶輸送の要地として栄え、州都ハリファックスは、十九世紀の中頃に蒸気船が現われるまで、世界的な造船所として名を馳せ、米国独立戦争のときはイギリス軍の主要軍需供給地、また第二次大戦中は連合軍輸送船団の基地として活躍した。また、キルトの生産地としても世界中に知られていた。

いずれも、今では重要性はかなり失われたものの、ハリファックスは現在も北米でも最大級の不凍・深水港であること変わりなく、また人口の三五パーセントはスコットランドとの縁をもっている。

大西洋四州の中では人口が最も多く（約九十万人）、経済的にも最も豊かである（ただし、他の三州と同じく、連邦政府の平衡交付金への依存率はかなり高い）。その主な理由は、漁業や林業などの伝統的な産業が好成績をあげているのと同時に、近海での石油・天然ガス開発が活発になったことが大きい。

カボットは、ノバ・スコシア沿海について、「魚類で埋め尽されているが、それは網でとるような程度ではなく、バケツですくいあげることができるほど豊富である」と、航海記に書いているが、漁業がいまでも州経済の屋台骨であることに変わりない。カナダは世界最大の水産物輸出国で、八三年には十六億ドル相当を輸

五稜郭からハリファックス港を臨む。